

今月の星空



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

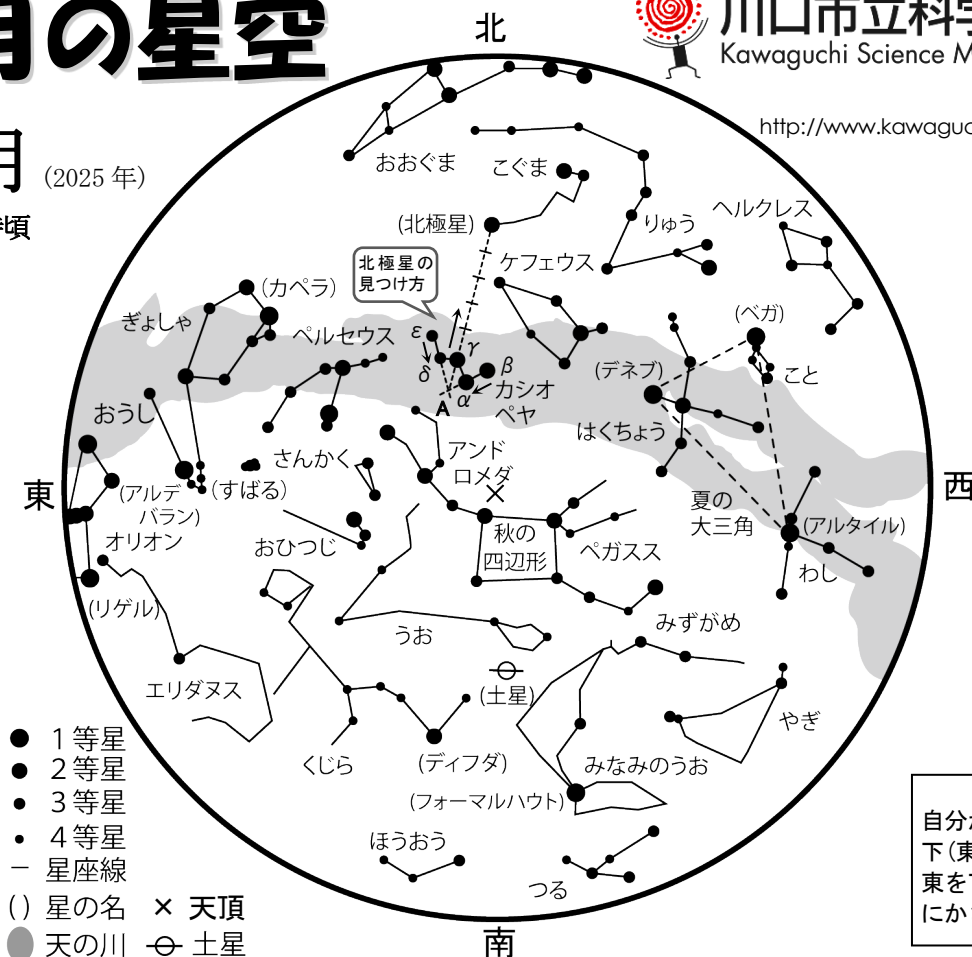


tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

11 月 (2025 年)

中旬 20 時頃



月 齢 ○ 満月 5 日、● 下弦 12 日、● 新月 20 日、● 上弦 28 日

惑星情報 木星 真夜中 東(ふたご座 -2 等) 土星 夜のはじめ頃 南(みずがめ座 1 等)

★カシオペア座から北極星を探してみよう

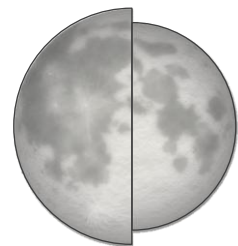
天頂付近には、ペガサス座(秋の四辺形が目印)が昇り、秋の星座が見ごろです。特に東から北の空にかけては明るい星が多くにぎやかです。例えば、秋の四辺形から北東方向、低い方へアンドロメダ座、ペルセウス座が続きます。北の空のカシオペア座は、市街地でも見つけれられる 5 つの星(α, β, γ, δ, ε)が W 型に並び、北極星を見つける目印*として、よく用いられるおすすめの星座です。

【北極星の見つけ方】星図のとおり、①β→αへとつないだ線とε→δへとつないだ線をそれぞれのばして、交点 A をつくる。②その交点 A→γへとつなぎ、その線の長さを 5 倍のばす。

※北極星の見つけ方は色々あるが、春～夏は北斗七星から、秋～冬はカシオペア座からたどる方法がおすすめ。

★月初めは月に注目！～十三夜と今年最大の満月～

2 日は旧暦 9 月 13 日にあたり、「十三夜」と呼ばれる「中秋の名月」に次ぐ二度目のお月見の日です。満月 3 日前の欠けた月を眺めるとその近くには土星も見えてでしょう。また、5 日の満月は、今年最も大きく見える満月です。月の見かけの大きさが変わる理由は、月の軌道が楕円であり、地球との距離が一定ではないためです。11 月 5 日の満月(地球との距離：約 35 万 7 千 km)は、今年 4 月 13 日の最も小さい満月(同：約 40 万 6 千 km)に比べて、直径が約 14% 大きく見えます(右図)。ちなみに、次の満月(12 月 5 日)も約 35 万 8 千 km と距離が近く、変わらず大きな満月です。



11 月 5 日 4 月 13 日
©国立天文台

図 今年最大の満月(左)と最小の満月(右)の比較

★見える？見えない？極薄の土星の環

2025 年は土星の環が消えたように見える「土星の環の消失」が起こる年。具体的には、3 月 24 日…地球から見て環を真横から見る(環の傾きが 0 度)とき、5 月 7 日…環を太陽が真横から照らすときに起こりました。そして、11 月 25 日頃、再び地球から見て、環を“ほぼ真横”(環の傾きが約 -0.5 度)から見るタイミングとなります。この時期の土星は、夜のはじめ頃に南の空の高い位置にあり、観望しやすい時期です。環の観察には望遠鏡が必要ですが、実際に土星がどのように見えるか確かめてみましょう*。

※科学館でも望遠鏡で天体観測を行う夜間観測会を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。